



廃止措置工事に係る情報交換会を開催しました

8月2日、日本原子力発電株式会社敦賀発電所1号機の廃止措置工事の元請会社と工事の参入に関心のある県内企業との情報交換会を開催しました。この情報交換会は、県内企業の廃止措置工事への参入促進の一環として開催しており、11回目となります。今回は「取水口エリア解体工事」と「薬液注入ポンプ他解体工事」を対象とし、14社が参加しました。

「全体説明会」では、日本原子力発電株式会社から廃止措置計画の概要の説明と元請会社から工事の概要や必要な技術要件などを説明されました。密を避けるため「全体説明会」は、3社～4社1組のグループに分けて予め収録された映像を時間差で視聴する形式をとりました。

また、「個別面談会」では、工事の元請会社となる2社が県内企業6社と面談し、参加企業は自社の技術力をアピールしたり、作業内容についての積極的な質疑応答が交わされました。

エネ研は、今後も参加企業の協力も得ながらこのような情報交換会等を開催し、県内企業の廃止措置業務への参入をサポートしてまいります。



全体説明会



個別面談

令和4年度「原子力関連業務従事者研修」の御案内

エネ研は、福井県が策定した「嶺南Eコースト計画（原子力関連研究の推進および人材の育成）」の一環として「原子力関連業務従事者研修」を実施しています。

この研修は、原子力関連業務への参入や技術力向上を希望する県内に事業所を有する企業の皆様を対象とし、また、本年度は、受講者のニーズに合わせたカリキュラムを導入するなどにより、内容を一部見直しています。

なお、全ての講座はテキスト代も含めて無料です。研修の詳細は、右記二次元コードからエネ研webサイト「原子力関連業務研修のご案内」を御覧ください（実施状況は原則毎週水曜日に更新しています。）。

多くの皆様の御参加をお待ちしています。



◆原子力関連業務従事者研修の詳細については、右のコードから御覧ください。



第2回 QST-WERCミニワークショップを開催しました

7月28日、イオンビーム利用研究を推進するエネ研と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）高崎量子応用研究所は、材料分野を中心に互いの研究内容を理解し交流を深めるため、第2回 QST-WERCミニワークショップを開催し、双方から約20名が参加しました。

前回はオンラインのみでの開催でしたが、今回はオンラインとエネ研でのオンサイト開催というハイブリット形式での開催となったことから、会場となったエネ研では講演後の時間を利用して、対面での意見や情報の交換が行われ、研究交流を深めることができました。今後も研究協力を継続することを確認し、ワークショップを終了しました。



講演の様子



講演後の質疑応答

科学機器紹介【電子プローブマイクロアナライザー装置(EPMA)】

エネ研には、約50種類の高度な科学機器が設置されており、低料金でご利用いただくことができます。今回は、「電子プローブマイクロアナライザー装置（EPMA）」を御紹介します。この装置では、物質がどんな元素から構成されているかを解析できます。

<電子プローブマイクロアナライザー装置の特徴>

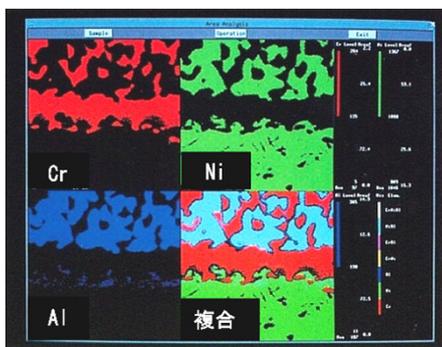
物質の表面に電子線を当てると元素ごとに固有の波長の「特性X線」とよばれる電磁波が発生します。この電磁波の波長とその強さを測定することにより、物質の組成や分布状態を調べます。

本装置では、試料を構成する元素の同定を高感度（ppm程度）に行うことや表面部分の元素分布状況を可視化することができます。

<利用例>

金属、半導体、セラミックス、繊維等非常に広範な分野での物質の組成分析が可能です。

<観察例>



クロム、ニッケル、アルミニウムを含む耐熱合金の元素分布状況の測定結果を色で表現したものが左の図です。

各元素の分布状況を見てみると、材料内部ではマイクロレベルでの元素成分の偏りがあることが分かります。

また、それぞれの元素分布図を複合してみると、合金中ではクロムが特に偏析しやすいことやニッケルやアルミニウムも混ざり合う部分とそうでない部分があることが可視化できました。



電子プローブマイクロアナライザー
（日本電子製
JXA-8900RL）

◆エネ研に設置の科学機器については、以下のコードから御覧ください。



本誌を読まれての御感想、御意見を下記担当あてお寄せください。

住所:〒914-0192 福井県敦賀市長谷64号52番地1

E-mail:kikakushien@werc.or.jp

TEL:0770-24-7273 FAX:0770-24-7275

公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター エネ研ニュース担当

